

「サンタさん
どうしたの？」
という紙芝居です

Xマスが近づいてきました。
みなさんはサンタさんに
どんなお願いをしましたか？
もの忘れがひどくなった
サンタさんのお話です



「もうすぐXマス。今年もプレゼントが
たくさんあるなあ～

えーっと、あれ、このプレゼントは
どこに持っていく分だったっけ。

思い出せない！

あ～あ～、困った！ 困った！

どうしよう。こんなにあるのに間に合わ
ない。

そうだ、ロバ先生に相談してみよう。」



サンタさんはロバ先生のところにやってきました。

「サンタさん、どうしましたか？」ロバ先生はサンタさんにたずねました。「ロバ先生、この頃もの忘れがひどくて、子供たちにプレゼントが渡せなくなりそうなんです。どうしたらいいですか？」

「どうしよう！ 困った！ 困った！」サンタさんは何度もロバ先生に言って相談しました。



「大丈夫ですよ、サンタさん。トナカイさん達を呼んで下さい。」
ロバ先生はニコニコしながら言いました。

トナカイさん達がやってきました。

「ロバ先生、サンタさんは大丈夫でしょうか」

トナカイさん達も心配です。

ロバ先生はトナカイさん達に言いました。

「トナカイさん達の協力があれば大丈夫。

これから認知症という病気のお話をしますから

よく聞いて下さいね」



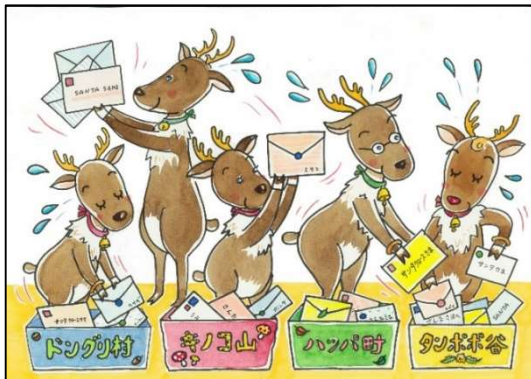
トナカイさん達はしっかり

メモしています。

ロバ先生のお話を聞いたトナカイさん達は
さっそく仕事です。

サンタさんのところに来た手紙を
どんどん分け始めました。

ドングリ村に キノコ山 ハツパ町
タンポポ谷と、まだまだたくさんあります。
みんなの手紙もあるかな？



「タンポポ谷は これで終わりかな？」

「今年もたくさんあるね」

トナカイさん達はXマスに間に合うよう大忙しです。
サンタさんがすぐに配れるように
ソリに乗せています。

「忘れ物はないかな？」

「あっ、1つ忘れてるよ」



「さあ これで大丈夫」
ソリにはプレゼントがいっぱいです。

トナカイさん達のおかげで 今年も子供達に プレゼントが配れます。

トナカイさんが言いました。

「サンタさん、いつでも出発できますよ」

サンタさんはハリキッテいます。

元気な声で、「出発~！」と かけ声をかけるとソリが動きはじめました。



サンタさんが ロバ先生に手を振っています。
ロバ先生も手を振って、「サンタさん、元気よく出発
できてよかった！ よかった！
サンタさんは認知症という病気です。
でも みんなの協力があれば大丈夫。
大切な仕事もできるのです。
困ったことがあったら すぐ相談にきてね。



では よいXマスを

おわり